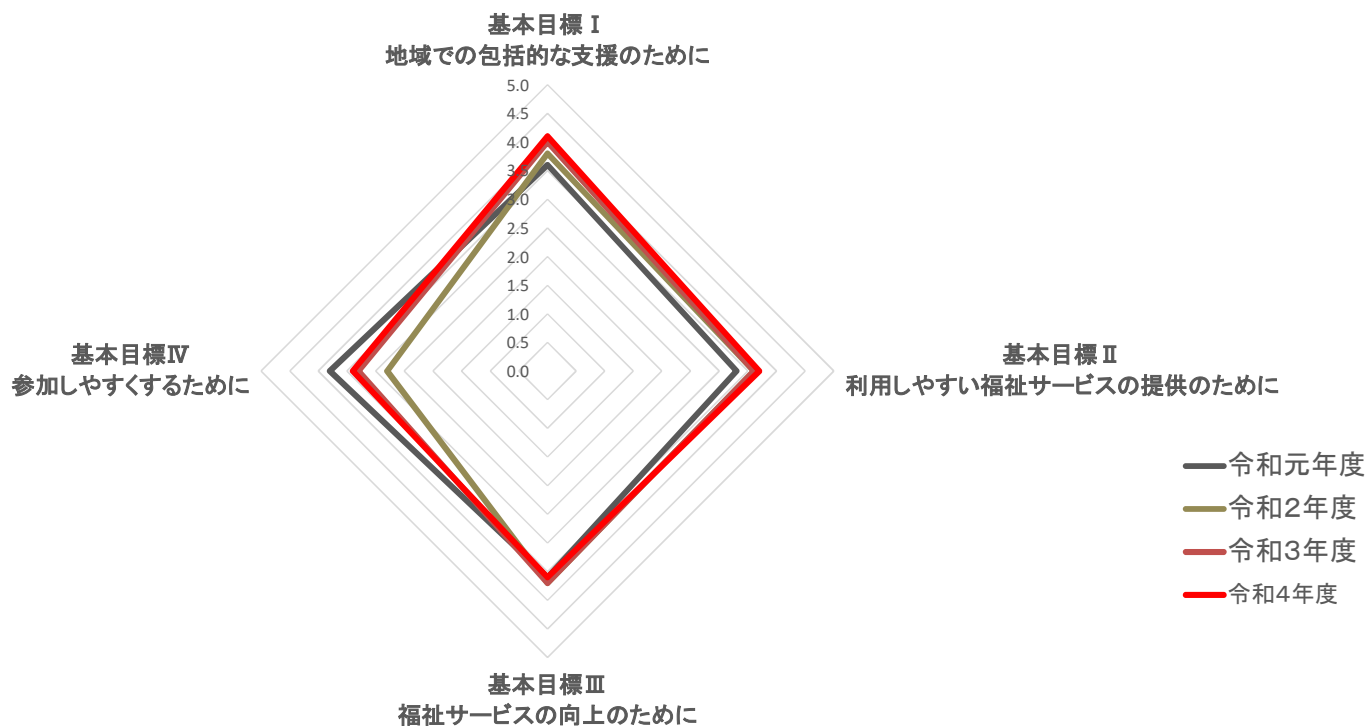


◆第3期唐津市地域福祉計画 基本目標ごとの達成度状況

基本目標	事業項目ごとの自己評価点								基本目標ごとの自己評価平均点				
	事業No. 1,9,16,20	事業No. 2,10,17,21	事業No. 3,11,18,22	事業No. 4,12,19,23	事業No. 5,13,24	事業No. 6,14,25	事業No. 7,15,26	事業No. 8,27	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基本目標Ⅰ 地域での包括的な支援のために	4.5	4.0	5.0	4.5	3.5	4.0	4.5	2.5	3.6	3.8	4.0	4.1	
基本目標Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために	5.0	3.7	3.0	3.0	4.5	4.0	3.0		3.3	3.6	3.6	3.7	
基本目標Ⅲ 福祉サービスの向上のために	4.0	4.0	3.5	3.0					3.6	3.7	3.7	3.6	
基本目標Ⅳ 参加しやすくするために	3.5	3.0	3.5	2.0	3.5	4.0	4.0	3.5	3.8	2.8	3.3	3.4	



様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況		
				自己評価								R 1	R 2	R 3
1 他分野・他機関連携体制の整備	1	福祉総合相談支援体制の整備	福祉総務課	福祉総合相談窓口の設置	目標	実施方法の検討	担当課協議	予算の確保	設置	実施	—	令和4年7月の新庁舎供用開始に合わせ、1階に福祉まるごと総合相談窓口を設置し、市報やホームページにより周知・案内を行った。 また、保健福祉部の総合窓口として、各課窓口への案内職員を1名配置した。 また、保健福祉部の総合窓口として、各課窓口への案内職員を1名配置した。	4.5	順調に進んでいる ①総合相談窓口のあり方として、国が示す重層的支援体制整備事業に取り組む必要があるか、引き続き検討する必要がある。 福祉総合相談支援包括化推進員については、福祉まるごと相談窓口への相談実績の状況に応じ、必要性について検討する必要がある。現在は福祉総務課職員にて対応中。 福祉総合相談（福祉まるごと相談）の周知を行い、問題を抱えている世帯の掘り起こしを行っていく。 ②地域で気になる世帯などがあれば、福祉まるごと相談窓口や民生委員・福祉員まで情報提供をお願いしたい。
					実績	検討中	実施	確保済	設置済					
					達成度	75%	75%	75%	100%					
				福祉相談支援包括化推進員の設置	目標	実施方法の検討	実施方法の検討	委託先の選定	設置	実施	—			
実績	検討中	検討中	検討中		実績確認中									
達成度	25%	25%	25%		50%									
自己評価					3.0	3.5	4.0	4.5		点				
2 地域医療・福祉の充実	2	生活支援体制整備事業	地域包括支援課	地域協議体（地区）	目標値	27	27	27	27	27	協議体	地域協議体の開催支援や高齢者アンケート調査の結果から、地域ごとに取り組む内容を検討した。その成果として、介護予防のための教室や生活支援活動や移動支援といった支え合い活動（有償ボランティア）に取り組む地域が出てきた。 ・100歳体操（休止中除く R5.3現在） 43ヶ所 ・生活支援ボランティア（R5.3現在） 11か所 また、R5年度の住民主体サービス開始に向け、補助事業の準備をすることができた。	4.0	順調に進んでいる ①地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施できるしくみづくり、高齢者の移動支援の検討・研究、コロナ禍での地域協議体の開催や支え合い活動の方法が課題である。今後の方針としては、地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施できるよう運営に関する支援を昨年度に引き続き検討していく。 ②地域協議体の取り組みや活動を知ってもらい、地域住民に可能な範囲で参加・協力が得られるよう、広報、周知を検討していく。
					実績値	25	27	27	27					
					達成度	93%	100%	100%	100%					
				生活支援コーディネーター	目標値	14	14	14	14	14	人			
					実績値	12	12	12	12					
					達成度	86%	86%	86%	86%					
	自己評価					3.0	4.0	4.0	4.0		点			
	3	在宅医療・介護連携推進事業	地域包括支援課	多職種研修会	目標	2	2	4	4	4	回	・相談対応：「在宅医療・介護連携支援センター」月平均10件 ・会議開催：在宅医療・介護協議会ワーキンググループ委員会12回、訪問看護部会6回、退院支援ルール会議2回 ・情報共有：退院支援ルールアンケート実施、退院調整もれ率がR3年度22.7%→R4年度12.7%と改善した。 退院時、利用者が安心して退院できるように取り組んでいる内容についてまとめ、関係者で共有した。 ・研修会の開催：多職種連携研修会（web）5回 参加者約341人 ・住民への普及啓発：いきかたノートの配布。 ワーキンググループ委員会で、在宅医療・介護連携での「本市の目指すべき姿」について検討を行った。 ・いきかたノートの配布時や説明会を通して、在宅医療と介護連携について地域住民の理解を図った。 R4年度（R5年2月末）配布数578冊	5.0	完了（目標達成） ①市民公開講座の取り組み。収録放送での市民公開講座を実施する。在宅医療・介護連携においての本市の目指すべき姿「本人が自分らしく安心して人生の最期まで生きるとともに、本人が望む場所、望む形で、最期まで暮らすことができる」の実現に向けて、ACPの普及、在宅医療・介護連携支援センター「びあと」の窓口機能及び調整機能の強化を行う。 ・いきかたノートを活用した普及啓発 ②ACP、人生の最終段階や在宅医療・介護について知る。在宅医療介護支援センター「びあと」について知る。いきかたノートを活用する。
					実績	3	1	7	5					
					達成度	150%	50%	175%	125%					
ワーキンググループ委員会				目標	—	—	12	12	12	回				
				実績	—	11	12	12						
				達成度	—	—	100%	100%						
自己評価					4.0	4.0	5.0	5.0		点				

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況								
				自己評価								R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）			
2 地域医療・福祉の充実	4	離島診療所の医師及び看護師確保	保健医療課	離島診療所の医師数 ⇒神集島1人 高島 1人 加唐島1人 馬渡島1人 小川島1人	目標値	5	5	5	5	5	人	高島診療所の常駐医師確保を引き続き行ったものの、市民病院から人事異動により常勤医師の確保ができ週3日の診療体制の構築ができた。	4.5	完了（目標達成） ①高島診療所において、週3日の診療体制の堅持。医師不足、医師の働き方改革により、いつ何時医師の欠員が生じるおそれがあることから、オンライン、対面診療によるハイブリット診療体制について検討を行う必要がある。						
					実績値	4.8	4.7	4.7	5											
					達成度	96%	94%	94%	100%											
				離島診療所の看護師数 ⇒神集島2人 高島 1人 加唐島1人 馬渡島2人 小川島1人	目標値	7	7	7	7	7	人									
					実績値	7	7	7	7											
					達成度	100%	100%	100%	100%											
				自己評価					4.5	4.5	4.5				4.5		点			
				3 地域の見守り体制の充実	5	小地域福祉活動推進事業補助金	福祉総務課	福祉員設置数	目標	891	891				891	1,020	おおむね50世帯に1人	人	小地域における福祉のリーダーとして活動する福祉員の活動費に対し補助を実施した。R4は地域内連携を強化し、特に高齢者世帯の見守り活動等に力を入れたことで、コロナ禍後の引きこもりがちな高齢者や不安を抱える地域の方などに対し福祉員がサポートを行うことで住民相互の助け合い活動や交流事業の推進に繋がった。その他、福祉員研修では、町内会長を中心に町ごとにグループワークを行うなど、地区内の情報共有を密に行うことができた。 福祉員配置数について、適正人数より多くなっている地区もあつたため、50世帯に1人を基準に配置人数に見直しを図り、トータル数は昨年度より減少となった。	3.5
実績	857	858	852						832											
達成度	96%	96%	96%						82%											
自己評価								4.0	4.0	4.0	3.5	点								
6	民生委員費	福祉総務課	民生委員定数					目標	336	336	336	一斉改選	定数見直し検討	人	民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることもあり、委員の負担が増えている。それに伴い活動する際に個人に係る費用負担も増加していることもあつた。そこで、令和2年度から活動費や協議会に対し市からの補助金を増額した。 新型コロナウイルス感染防止の工夫を行いながら相談や研修会を実施するなど、コロナ禍の中でもできることを行うことで活動の推進に繋がった。	4.0	順調に進んでいる ①民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることから、委員に対し適切な情報提供を行うなど、活動を支援していく必要がある。 新型コロナウイルス感染防止に配慮した民生委員活動を検討する。 市への問い合わせにおいて窓口を一本化し、その窓口において事案に応じた対応を速やかに確認することができる体制を整える。			
								実績	335	335	336	336								
					達成度	99%	99%	100%	100%											
			研修会への参加		目標	4,032	4,032	4,032	4,032	4,032	人									
実績	7,378	6,035			5,922	6,493														
自己評価					4.0	4.0	4.0	4.0	点											

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況		
				自己評価								R 1	R 2	R 3
3 地域の見守り体制の充実	7	既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討	福祉総務課 生涯学習文化財課	地域の見守り 拠点の設置	目標	検証	130	145	145	145	箇所	市立公民館及び地区公民館において、地域住民の交流の場、見守りの場として、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操事業を展開・支援した。なお、市立公民館25館では、新型コロナウイルス感染防止のため、公民館を休館したり地域行事の中止があったが、感染対策を講じながら主催講座やサークル活動を行った。 令和4年度は新たに7か所（さんで、原公民館など）で100歳体操が開催されるなど、着実に見守りの場が広がっている。 再犯防止推進の観点から、保護司の面接場所としての公民館の利用について協力をを行い、2か所の公民館（鬼塚公民館、浜玉公民館）で利用があった。	4.5	順調に進んでいる
					実績	実施	141	143	150	点				
達成度		50%	108%		99%	103%								
				自己評価		3.0	3.5	4.0	4.5					
8	学校・家庭・地域社会の連携強化	学校教育課 学校支援課	外部人材の活用	目標	10,000	12,732	6,679	1,971		人	第一中学校校区の3校（第一中学校、長松小学校、大志小学校）において、コミュニティスクールが設置されており、地域人材を活用しながら、中学校では面接指導や職業体験、ボランティア活動、小学校では職業講話や高校と連携した夏休みの学習支援等が実施された。また、各小中学校では、自然環境や伝統を活かした体験活動が実施された。地域人材を活用した体験活動としては、陶芸（納所小、加唐小中）、ヨット体験（西唐津小、西唐津中）、農業体験（蔵木小、田野小）、漁業体験（佐志小、馬渡小中、小川小中）、文化伝統体験（北波多小、呼子小）、ボランティア活動（湊中）等が実施され、地域の文化を学ぶ学習などを行った。	2.5	概ね順調だが、不十分な点が少しある 年間を通じて、各学校の教育活動における、家庭・地域への情報発信、協働した活動を積極的に行っている。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったが、各学校でリモートの活用、人数の制限等、実施方法を工夫しながらできる範囲での活動を行うことができた。今後も各学校や地域の実情に応じて、地域人材の活用を積極的に進めたい。コミュニティスクールに関しては、推進するのに人材確保等の課題がある。	
				実績	12,732	6,679	1,971	2,199						
達成度	127%	52%	30%	112%										
				自己評価	3.0	3.0	2.5	2.5		点				

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
													①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）	
4 情報提供の充実	9	唐津市保健福祉ガイドブック(仮称)の発行	福祉総務課	ガイドブックの発行	目標	掲載内容及び発行方法の検討			手段の検討	実施	—	冊子形態以外の新しい情報提供手段として、問い合わせ対応窓口のAI活用などを検討した。 他市における情報提供手段について資料を収集した。	5.0	順調に進んでいる
					実績	検討中	検討中	方針決定	検討中					
					達成度	75%	75%	100%	100%					
				自己評価	4.0	4.5	5.0	5.0	点	また、令和6年度に予定されているホームページのリニューアルに合わせ、AIチャットボットの機能追加について検討を進				
5 相談支援体制の充実	10	各相談支援窓口職員向け研修の実施	保健医療課	職場外研修の受講	目標値	6	6	6	6	6	回	新任期保健師研修会2回延11人・新任期保健師実地指導者研修会1名・日本公衆衛生看護学会2名・管理期保健師研修会2回延5人は、集合研修で受講。九州ブロック保健師等研修会5名・地域保健福祉従事者研修会24名はオンラインでの受講。職場内研修の機会として保健事業連絡会は12回実施。 研修を受けることにより、それぞれの年代で担っている保健師としての役割を学ぶことができ、また、専門的知識を学ぶことにより、相談従事専門職として力量形成を図ることができた。	4.0	完了（目標達成）
					実績値	6	2	5	6					
					達成度	100%	33%	83%	100%					
				職場内研修(保健事業連絡会)の実施	目標値	12	12	12	12	12	回			
					実績値	11	10	9	12					
					達成度	92%	83%	75%	100%					
			自己評価	4.0	3.0	4.0	4.0	点	①相談業務は様々なケースがあり、経験年数が少ない職員の育成が課題である。 地区担当制及び業務担当制をとし、職員育成を推進していく。（共に訪問等の相談業務にあたることにより後輩職員が先輩職員から学ぶ場を作っていく）					
			こども家庭課	虐待対応専門員、家庭児童相談員及び母子父子自立支援員に関する研修の受講	目標	4	4	4	4	10	回	こども家庭相談室（家庭児童相談室）：4月、6月及び12月に佐賀県・市家庭児童相談員連絡協議会、6月～10月に佐賀県児童虐待防止対策研修会、7月に市町村子ども家庭支援指導者研修、8月に若年層自殺予防研修会、9月にひきこもりサポーター研修（2日間）、11月にヤングケアラー個別研修会、2月に思春期こころのケア研修会、3月に親子関係再構築支援に関する研修会の年間10回出席。 母子・父子自立支援員：7,9,12月にDV関係機関相談員向け研修、12月に佐賀県母子・父子自立支援員及び母子父子寡婦福祉資金貸付金担当者等研修会の年間4回出席。 相談援助技術について習得することができ、相談対応する際に実践できるようになった。	4.0	順調に進んでいる
					実績	4	4	7	14					
					達成度	100%	100%	175%	350%					
				自己評価	3.0	5.0	4.0	4.0	点	①研修で得た知識を活かし、実際の現場での実践力を強化する。また、令和5年度は担当者間でロールプレイを実施し、面談スキルの向上を図る。 相談員が不在の場合にも他の職員で対応できるよう、更なる職員の意識の醸成と育成が課題。 計画的な研修受講の継続、受講後の他の職員への伝達講習、及び相談支援業務に関連性の深い市の事業について知識を深めることで、職場全体で更なるスキルアップを目指す。また、職歴の浅い職員には経験豊富な先輩職員が同行して訪問を行うなど、実際の現場で業務を進めながら実務を学ぶ場を設ける。				
			障がい者支援課	研修等への参加	目標	12	12	12	12	12	回	相談支援事業のスキル向上のための佐賀県自立支援協議会人材育成部会、ファンリテーション・ミーティング研修に参加。相談支援従事者研修に向けた打合せに参加、研修会講師としても参加。相談支援事務連絡協議会への参加。 佐賀県相談支援事業従事者初任者研修の講師として参加し、県内の相談支援発展のための役割を担うことができた。ファンリテーション・ミーティング研修に定期的に参加し、ファンリテーションのスキルアップを行った。また、市町における包括的な支援体制整備に関する研修会、相談支援事務連絡協議会への参加により相談員としての資質向上に努め、他機関との連携を図ることができた。	4.0	順調に進んでいる
実績	10	11			13	11								
達成度	83%	91%			108%	91%								
自己評価	3.0	4.0		4.0	4.0	点	①自主的に相談に来られない地域の障がい者の方々の把握。 地域の相談支援体制の向上及び人材育成に向けた働きかけ。 地域の関係機関と事業所訪問等を行い連携を図り、積極的に地域の事業所との情報共有に努める。							

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況				
													①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）				
5 相談支援体制の充実	10	各相談支援窓口職員向け研修の実施	高齢者支援課	研修受講回数	目標	-	5	3	3	3	-	認定調査員新任研修（佐賀県）を1人が受講した。例年実施されている認定調査員能力向上研修（厚労省）及び認定調査スキルアップ研修（民間）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、以前の研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深めた。各業務の専門性を高めることができ、利用者に寄り添った相談支援が可能となった。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①専門的な相談支援を実施するため、経験年数が少ない職員の育成が課題である。今後は研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深める、職場全体のスキルアップを目指す。			
					実績	-	2	1	1								
					達成度	-	40%	33%	33%								
			自己評価		4.0	3.0	3.0	3.0		点							
			地域包括支援課	介護支援専門員研修等受講回数	目標	-	-	-	9	9	-				保健師、社会福祉士等の専門職が専門性を高めるため、国、県、関係団体等主催の研修（WEB研修を含む）を積極的に受講した。必要に応じて報告会や学習会を行う等課内で情報共有を行ったことで、各専門職のスキル向上につながった	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①専門職の人材不足等により十分な相談支援体制ができていない。人材確保、人材育成、相談支援体制の検討。専門職の人材募集を引き続き行うとともに複数の職員で窓口相談対応ができるような課内の体制を検討する。
					実績	-	-	-	9	-							
		達成度			-	-	-	100%	-								
		自己評価		3.0	3.0	3.0	3.0		点								
		生活保護課	研修受講回数	目標	-	-	-	30	-	-	生活困窮者自立相談支援事業従事者研修などの研修は可能な限り受講している。（自立相談支援事業従事者養成研修、家計改善支援事業従事者養成研修ほか）積極的に研修を受講し、相談支援に対する意識の向上が図られ、相談員のスキルアップに繋がり、困窮者の就職へと結び付けることができた。 ・新規相談者数 361人 ・延べ相談者数 15,238人 ・プラン策定件数 93件 ・就職決定者数 115人	4.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①生活困窮者に対応するため、各方面の機関と連携が必要であり、それに伴う知識が要求される。相談支援員各々の質の向上のためにも、積極的に研修等を受講することが必要である。 研修会へは可能な限り参加できる体制を構築する。生活自立支援センター内の情報共有を行い、相談支援員のスキル向上に務める。				
実績	-			-	-	51	-										
達成度	-			-	-	170%	-										
自己評価				3.0	3.0	3.0	4.0		点								
11	民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援策	福祉総務課	-	目標	-	-	-	-	-	-				唐津市民生・児童委員連絡協議会の活動の強化及び協議会の円滑な運営のため補助を実施し、新型コロナウイルス感染症拡大の中、できる範囲内で各地区協議会で研修会などを開催し、民生委員・児童委員の資質向上を図ることができた。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①民生委員・児童委員と福祉員が連携した活動の支援を行うため、引き継ぎ、市社協や地区社協と連携し支援を行いたい。	
				実績	-	-	-	-	-								
				達成度	-	-	-	-	-								
自己評価		3.0	3.0	3.0	3.0		点										
12	福祉部門に配置する専門職の雇用	人事課	新規採用職員専門職募集数	目標値	3	2	0	0	実情に応じて検討	-	福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職である社会福祉士については、全体の職員数に鑑み、令和4年度は当該職の募集を実施しなかった。（社会福祉士の職員数は令和5年4月1日現在で6名） 今後も福祉部門における各担当課の現状を把握しながら、引き続き社会福祉士の配置の必要性を検討し、募集を行う。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①採用試験を実施する場合は、受験者数の確保が課題となる。 ※数値目標の指標については、募集数ではなく、必要な社会福祉士の人数とするなど、検討する必要がある。				
				実績値	2	1	0	0									
				達成度	66%	50%	-	-									
				自己評価		3.0	3.0	3.0	3.0						点		

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況					
													①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）					
6 権利擁護体制の整備	13	成年後見制度利用支援事業	障がい者支援課【障がい者】	申立件数	目標値	1	3	3	3	3	件	障がい者に関する関係機関からの相談を受け支援会議を開催し、市長申立て手続きを実施中。また、本人の資力等を考慮し後見人報酬の助成を行った。 成年後見等申立て件数 0件 報酬助成 4件	4.0	順調に進んでいる				
					実績値	4	1	0	0									
					達成度	100%	33%	0%	0%									
				成年後見人報酬助成件数	目標値	3	4	2	2	2	件							
					実績値	1	3	3	4									
					達成度	33%	75%	150%	200%									
	自己評価				3.0	3.0	3.0	4.0		点								
	13	成年後見制度利用支援事業	地域包括支援課【高齢者等】	申立件数	目標値	4	4	8	9	10	件	認知症高齢者等に対する成年後見、保佐、補助開始の審判について市長申立てを行った。後見人等への報酬の支払いに対する助成を行った。成年後見制度利用促進のための中核機関の（唐津市成年後見サポートセンター）を設置した。 【成果】 ・認知症高齢者等に対する権利擁護支援を図ることができた。 ・報酬助成により、安定した制度利用につなげることができた。 ・地域における権利擁護支援ネットワークの構築や成年後見制度利用促進のため中核機関を中心として関係する機関・団体等と協議を重ねながら、権利擁護に係る支援体制の強化、質の向上に取り組んでいく。	5.0	完了（目標達成）				
					実績値	4	8	5	10									
					達成度	100%	200%	63%	111%									
成年後見人報酬助成件数				目標値	4	4	6	7	8	件								
				実績値	7	6	10	12										
				達成度	175%	150%	167%	171%										
自己評価				4.0	5.0	5.0	5.0		点									
7 災害・緊急時の支援体制の充実	14	避難行動要支援者名簿の活用と啓発	福祉総務課 危機管理防災課	平時からの情報提供同意者数	目標	4,000	4,250	4,500	4,750	5,000	人	「地域における避難支援の手引き」を策定し、地域支援者（民生委員・児童委員、行政連絡員）に配布するとともに、ホームページで公開した。また、未同意者に対し、個別計画の地域支援者に対する情報提供及び個別計画策定について、勧奨の通知を行った。（令和4年9月 未回答者2,136人に通知） 地域の防災講話や介護支援専門員研修会（R4.7.12）で災害時の避難行動要支援者等の支援について講話等を行った。 民生・児童委員や介護専門員を対象に、個別避難計画作成の現状や課題について説明を行うなど、避難行動要支援者それぞれが必要とする支援や具体的な避難行動をあらかじめ整理・準備しておくことの重要性についての理解促進に繋げることができた。	4.0	順調に進んでいる				
					実績	3,502	3,391	3,673	3,831									
					達成度	87%	80%	82%	81%									
				自己評価				3.5	4.0	4.0	4.0			点				
				<p>①災害時における避難行動要支援者を含む要配慮者への具体的な行動計画等を策定する必要がある。引き続き、防災部門と福祉部門が連携を行い、有効な避難行動要支援者の支援体制づくりに取り組む。</p> <p>②避難行動要支援者制度の理解を深めるとともに、地域における災害時の課題を整理、対応に向けて話し合いを進めていきたい。</p>														

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況
				目標	実績									①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）
	15	自主防災組織の設置促進	危機管理防災課	自主防災組織 設置数	目標	137	73	76	79	82	組織	自主防災組織設置促進及び地域防災力向上に係る防災講話を行った。 自主防災組織等が実施・参加する防災訓練の支援を行った。（12.15佐賀整肢学園、2.26大島町自主防災会、3.26大島町自主防災会、3.27成和地区社協）。 認定自主防災会意見交換会（R4.5.14）や地域防災リーダーフォローアップ研修4回（5月、8月11月2月）、ペット防災セミナーを実施した。 ○防災講話 実施回数・・・36回 ○防災訓練 支援回数・・・4回 ○研修会等 実施回数・・・6回 災害・緊急時の支援体制整備を図るため、令和4年6月に唐津市と市社協で唐津市災害ボランティアセンターの設置等に関する協定を締結した。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある
			実績	71	75	76	79			①地域をまとめるリーダーの不在や役員のなり手がいないなどの地域特有の事情により、自主防災組織の新規設立数の伸びは鈍化傾向にある。また、設立はしたものの活動が停滞している組織が見受けられる。防災講話などで、設立の機運を醸成するための取り組みをしっかりと進める。また、今後も意見交換会や地域防災リーダーフォローアップ研修の実施により、市民の防災意識向上及び自主防災組織の活動の活性化を図る。				
			達成度	52%	103%	100%	100%			②地域の災害時避難行動要支援者や要配慮者のことを把握され、万が一の場合に地域でどのように助け合うべきか理解を深めていただきたい。				
				自己評価	2.5	3.0	3.0	3.0			点			

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 Ⅲ	福祉サービスの向上のために
--------	---------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況
													①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）
8 福祉サービスの質と量の充実	16	福祉サービス苦情解決制度	福祉総務課	—	目標	—	—	—	—	—	—	4.0	順調に進んでいる
					実績	—	—	—	—	—			
					達成度	—	—	—	—	—			
				自己評価	4.0	4.0	4.0	4.0	—	点	施設ごとに苦情解決責任者、担当者を配置したことにより、社会福祉施設の苦情解決に一早く対応できるよう、体制整備が出来た。また、苦情解決責任者および担当者を中心に普段から利用者の声に耳を傾けるなど、福祉サービスの充実・信頼性の確保に努めた結果、令和4年度の苦情報告件数は0件であった。	④苦情につながる前の環境づくりをさらに強化する必要があるため、引き続き、各施設から定期的にヒアリング等を行い、ニーズ等の把握に努める。	
9 新たな福祉ニーズへの対応	17	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画	保健医療課	健康増進計画及び食育計画策定（統合で策定）	目標値	進捗管理	進捗管理	実態調査	最終評価	策定	—	4.0	順調に進んでいる
					実績値	実施	実施	実施	実施				
					達成度	75%	50%	75%	75%				
				自己評価	4.0	3.0	4.0	4.0	—	点	8月26日、健康づくり推進協議会及び、会の専門部会である健康づくりネットワーク会議を11月30日に開催し事業関係者などの意見を聴取することが出来た。	④健康増進計画、食育計画を統合し、令和5年度に第3期唐津市健康増進計画を策定予定。	
			子ども家庭課	第三期子ども・子育て支援事業計画（R6策定予定）	目標値	第2期策定	見直しの審議	見直しの審議	見直しの審議	実態調査	—	4.0	順調に進んでいる
					実績値	策定済	見直しの審議	見直しの審議	見直しの審議				
					達成度	100%	75%	50%	100%				
				自己評価	4.0	4.0	3.0	4.0	—	点	令和4年度当初に、書面にて前年度事業の報告及び意見聴取を行ったとともに、令和5年3月に子ども・子育て会議を開催し、保護者や保育所職員等の事業従事者、及び学識経験者等の参画を得て、現計画の中間見直しに関する審議及び次期計画策定に向けた今後のスケジュール等の周知を図った。	④次期計画より「からつ子未来応援プラン」との統合を図り、子ども子育て家庭を取り巻く環境の変化を注視しつつ、子どもの貧困対策を盛り込んだ計画を策定する。 令和4年度：第二期計画（R2～6）中間見直し審議 令和5年度：子育て支援ニーズ調査 子どもの貧困実態調査 令和6年度：次期計画（第三期）策定	
			障がい者支援課	からつ自立支援プラン策定（唐津市障がい福祉計画・唐津市障がい児福祉計画）策定	目標値	—	策定	検証	検証	策定	—	4.0	検証を実施した。
					実績値	—	策定	検証	検証				
達成度	—	100%			100%	75%							
自己評価	—	4.0		4.0	4.0	—	点	令和4年12月に、庁内関係部署及び外部団体（唐津保健福祉事務所、唐津市社会福祉協議会、唐津公共職業安定所）を対象に、書面にて前年度事業の計画目標検証（実績及び分析評価の聴き取り）を行った。 実績の分析評価を行うことにより、今後の計画の方向性を再確認することができた。	④当事者の意見、事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。 令和5年度、8年度からつ自立支援プラン策定予定（3年ごと）、令和9年度第3次唐津市障がい者基本計画、策定予定（10年ごと）				
高齢者支援課 地域包括支援課	高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定	目標値	調査	策定	検証	調査	策定	—	4.0	順調に進んでいる			
		実績値	調査済	策定済	検証済	調査済							
		達成度	100%	100%	100%	100%							
	自己評価	4.0	4.0	4.0	4.0	—	点	介護保険運営協議会を開催し、第8期介護保険事業計画の進捗管理及び検証を実施するもの。年2回開催（10月、3月）。被保険者代表者枠として7名（全17名中7名＝約41%）を委員として構成し、介護保険制度におけるサービス利用者（当事者）等の意見が反映されるよう図った。 その結果、介護保険運営協議会の開催をとおして、当事者の参画及び意見反映の機会を創出することができた。	④被保険者代表者枠の委員は、普段より介護保険制度に触れる機会が少なく、制度の基礎知識が乏しい方もおられるため、意見を発表しやすい環境であるという意見もあった。 次期計画編成における策定委員会においては、少数単位での作業部会等を開催するなどして、制度知識の習得及び意見を出しやすい環境整備に努めたい。				

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 Ⅲ	福祉サービスの向上のために
--------	---------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況			
				目標	実績	達成度	自己評価	自己評価	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）								
10 生活環境の整備	18	住宅改修費の助成	障がい者支援課 【障がい者】	給付件数	目標	5	5	5	5	5	件	現行の日常生活用具給付費の住宅改修について、助成回数上限20万円の1回限りの助成であるのに対し、障がいの程度が重くなった場合など、改修の必要が出てきたときに再度、助成ができるようにならないか検討を行い、現行の住宅改修に不足している部分についてのアンケート調査を実施した。 アンケート調査の結果を受け、そのニーズにより、「身体障がい者(児)住宅改修補助金」の制度を新規に創設（令和5年度当初予算措置済み）した。	2.0	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い			
					実績	4	3	3	0						①現行の日常生活用具給付費と「身体障がい者(児)住宅改修補助金」の2つの事業となるため、窓口にて制度の説明を行う際には、チラシ等を用いて工事内容なども具体的に説明していく必要がある。 ニーズや工事の発注の方法も多様化している中、周知を進めていくためには対象となる工事内容を把握しておく必要があると考える。類似事業をおこなっている高齢者支援課とも連携を取りながら、現行事業と新規事業について、申請者や関係機関が、より理解しやすい制度の案内に繋げていく。		
					達成度	80%	60%	60%	0%								
			自己評価	3.0	3.0	3.0	2.0		点								
			高齢者支援課 【高齢者】	給付件数	目標	336	336	336	336	336	件			住宅改修費支給申請書が提出された場合、内容を確認し申請内容が適当であれば、住宅改修費（20万円限度）から利用者負担分を差し引いた額を支給した。 介護給付を行うことにより、被保険者が、現に居住する住宅において自立した日常生活を営めるよう支援することができた。	5.0	完了（目標達成）	
					実績	334	335	340	350								①内容の審査時に、住宅改修として適当と認められる工事の範囲や、工事の適正価格の判断について、専門知識が必要とされる。審査の公平性に努めたい。 住宅改修費助成（介護保険）の制度（転居した場合や要介護度が3段階以上上がった場合は、支給限度額がリセットされることなど）について周知を行う。
	達成度	99%			100%	101%	104%										
	自己評価	4.0	5.0	5.0	5.0		点										
	19	高齢者住宅改修支援事業	高齢者支援課	助成件数	目標値	48	48	48	48	48	件	居宅介護支援の提供を受けていない要介護（要支援）者の住宅改修の利用において、介護支援専門員が住宅改修費の給付申請に係る理由書を作成した場合に、作成事業者に謝金を支払った。 居宅介護支援の提供を受けていない要介護（要支援）者においても、住宅改修の申請が容易となった。	3.0			概ね順調だが、不十分な点が少しある	
					実績値	25	21	20	11								①利用される方の状況で件数が変動するため、件数のみをもって一概に評価はできないが、引き続き住宅改修が利用しやすくなるよう介護支援専門員への制度理解と協力を求めていく。
					達成度	52%	44%	42%	23%								
				自己評価	3.0	3.0	3.0	3.0		点							

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				目標値	実績値	達成度	自己評価	点	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）						
11 地域活動の担い手の確保と育成	20	地域コミュニティ組織等の活動への支援	地域づくり課	NPO法人登録数	目標値	42	43	44	45	46	団体	NPO法人の設立支援や、地域コミュニティ組織である地域まちづくり会議が行う、地域の課題解決に向けた取り組みを支援した。 3つのNPO法人の設立を支援し、22地区の地域まちづくり会議の活動を支援した。	3.5	概ね順調だが、不十分な点が少しある	
					実績値	43	47	49	51					①NPO法人の設立については、順調に推移している。 地域まちづくり会議については、補助金以外の財源の確保と継続的な運営体制の構築が課題である。また、地域まちづくり会議に成熟度のバラつきが見られ、効果的な地域活動となっているか疑義のあるものが見受けられる。その他、地域によっては、防災や福祉の分野においても同様の協議体があり、それぞれの活動に参画することが、市民の負担となっているという意見もある。 ②地域づくりを推進するためには、核となる人材の育成が必要不可欠であることを念頭に事業に取り組んでいただきたい。	
達成度	102%	109%	111%		113%										
				自己評価	3.0	3.5	3.5	3.5		点					
	21	がんばる地域応援補助金事業（地域の市民活動の育成を図るソフト事業）	地域づくり課	新規助成事業件数	目標	20	20	20	20	20	件	市民の知恵や発想を最大限に引き出し、活発なコミュニケーションを通じて、地域が自らの選択と責任で個性と魅力あるまちづくりを推進する取り組みに対し、補助金を支出した。 ソフト事業20件（うち新規8件）、整備事業3件に対し補助金を支出し、市民のつながりを強固にし快適で暮らしやすいまちづくりの実現に寄与した。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある	
					実績	14	13	11	11					①市の他の補助事業と競合する部分があるため、市の他の事業と整理・統合を進めていく。 事業が継続して実施できるよう、団体の自立化を促進するため調整を行う。 ②コロナ禍により疲弊した地域コミュニティの活性化を図るため、積極的に事業を実施していただきたい。	
達成度	70%	65%	55%		55%										
				自己評価	3.0	3.0	3.0	3.0		点					

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況			
				R 1	R 2	R 3	R 4	R 5				①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）			
12. 福祉ボランティアの推進	22	唐津市ボランティアセンターの運営支援	福祉総務課	ボランティア講座数	目標値	6	73	47	67	67	講座	<p>学校を対象とするボランティア体験講座等の活動、民間ボランティア団体への活動支援等に対し、補助支援を行なった。ボランティア活動を通じて様々な方との交流の場が増え、生きがいづくりや健康増進に繋がっている。</p> <p>高齢者施設等でのボランティア活動はコロナの影響により未だ実施が難しいところであったが、学校（小・中・高）計27校において、セラピューティック・ケア、手話、点字、車椅子バスケット体験などの養成講座の実施により、ボランティアへの関心や意識を継続させることができたもの考える。</p> <p>また、コロナ禍でも実施できるボランティアについて、ボランティア連絡協議会等と連携し、屋外で実施するボランティア（花壇植栽、虹の松原の保全、川辺の草刈り、清掃活動等）に力を入れ活動を継続することで、地域福祉活動の促進が図られた。</p>	3.5	<p>概ね順調だが、不十分な点が少しある</p> <p>①施設等でのボランティア活動が未だ実施できない中、学校でのボランティア活動や屋外での活動強化など工夫されながら活動を継続されていることに評価する。また、災害ボランティアの体制整備も進んでいることに評価する。</p>	
					実績値	10	68	40	27						
					達成度	167%	93%	85%	40%						
				ボランティア講座への参加者数	目標	180	2,680	2,700	2,700	2,700	人				
					実績	155	2,143	2,623	2,115						
					達成度	86%	80%	97%	78%						
				ボランティア連絡協議会会員数	目標	4,200	4,200	4,230	4,230	4,230	人				
					実績	4,200	3,764	4,081	4,081						
					達成度	100%	90%	96%	96%						
	自己評価				4.0	3.0	3.0	3.5		点					
	23	市民活動支援センター「ステップ」の運営支援	高齢者支援課	相談件数	目標	100	100	110	110	110	件		<p>共生社会構築の拠点の「総合窓口」として、情報提供や相談など市民の出会いの場を提供した。</p> <p>団塊の世代が中心となるシニア世代をはじめとした一般市民を対象に、持ち前の技能を活かした活動やボランティア活動へのマッチング、登録した人材情報の活用等を行うことで、市民の新たな活動の場を広げることができたが、相談件数、派遣件数ともに目標値を大きく下回った。</p>	2.0	<p>実施方法も含め改善が必要である</p> <p>①コロナ禍の影響もあるが、社会情勢の変化により、事業へのニーズやボランティア活動に対するアプローチの方法が変わってきている。市の類似事業への集約・整理も含めて、事業継続の必要性を検討する時期にきている。</p>
					実績	100	26	48	50						
達成度					100%	26%	43%	45%							
ボランティア派遣件数				目標値	70	70	75	75	75	件					
				実績値	60	16	24	12							
				達成度	86%	23%	32%	16%							
自己評価				4.5	2.0	2.0	1.0		点						

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和4年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況								
													①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）								
12 福祉ボランティアの推進	24	介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進	地域包括支援課	ボランティア登録者数	目標	200	210	210	210	210	人	ボランティア活動を行う者として市に登録を行った唐津市に住む65歳以上の高齢者（要支援または要介護認定者を除く）が、市が指定する介護施設などで行うレクリエーションやお茶出しなどのボランティア活動を推進した。 活動に対してはポイントに応じて現金に換金して交付金として市が交付した。啓発やボランティア活動場所の拡大のため、他市町で実績のある佐賀県長寿社会振興財団に業務委託した。 結果として、高齢者の社会参加や地域貢献の機会を広めただけでなく、ボランティア活動者の介護予防につながった。 R4年度ボランティア登録人数（見込み）163人 R4年度ボランティア施設登録数（見込み）138施設	3.5	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①制度の認知度を高めるための啓発やボランティア活動場所の拡大、ボランティア活動登録者のサポートや研修などによる人材育成が必要。そのため、ボランティア活動登録者とボランティア活動受け入れ事業所を拡大させ、介護予防を推進していく。また、介護施設だけではなく身近な高齢者の通いの場（サロン等）の指定を増やし、地域での介護支援ボランティア実施を検討していく。 ②上記達成を実現するため、他市町での実績がある「佐賀県長寿社会振興財団」と引き続き連携を行い、普及啓発、参加者研修などを強化していく。							
					実績	258	142	118	163												
					達成度	129%	58%	56%	78%												
				ボランティア活動指定施設数	目標値	120	130	130	130	130	施設										
					実績値	128	130	131	138												
					達成度	107%	100%	101%	106%												
				自己評価		4.0	3.0	3.0	3.5	点											
				13 地域福祉に対する意識の啓発	25	地域福祉の啓発	福祉総務課	—	目標値	—	—				—	—	—	—	市ホームページ上にて「地域共生社会」の実現について、その求められる背景や市の取り組みについて啓発するページを引き続き掲載した。 各課が行っている地域福祉につながる取り組みについて、市報やホームページで周知啓発を行った。 誰もが共に支え合う地域社会づくりの一助となるフードバンク活動について、引き続き市報やホームページで周知を行った。	4.0	順調に進んでいる ①ホームページ上の情報を充実させる。市報などほかの媒体での意識啓発について検討を行う。 ②地域共生社会やフードバンク活動の周知をお願いしたい。
									実績値	—	—				—	—					
									達成度	—	—				—	—					
自己評価		4.0	3.5					4.0	4.0	点											
26 認知症サポーター養成講座の開催	26	認知症サポーター養成講座の開催	地域包括支援課	講座受講者数	目標	570	626	200	200	200	人	認知症に関する正しい知識の普及、対応の仕方について認知症サポーター養成講座を開催した。（13回、初回受講者331人）若年層への講座にも取り組んだ。（6回、受講者218人）講座を受講した人にボランティアの意向を聞き登録を行った。高齢者見守りネットワーク事業者に講座を実施した。 受講後のアンケート結果によると、「症状を理解できた」と回答した者は90%、「対応を学ぶことができた」と回答した者は91%に上り、受講者の大半の方が認知症に対する理解を深めることができた。児童生徒からも「認知症の人に優しく接したい。」「家族にも話したい。」といった感想が聞かれ、意識の向上が図れている。R5年3月末時点のサポーター総数の見込み6,955人	4.0	順調に進んでいる ①認知症サポーター養成講座を受講後に地域で活動できる場を作る必要がある。地域の認知症の人の困りごと、認知症ステップアップ研修修了者を中心としたチーム（チームオレンジ）の活動の場をつなげる支援をおこなっていく。 ②養成講座を受講した方がさらに知り合い等に講座を広めてもらうことで受講者をさらに増やしてほしい。							
					実績	579	196	361	331												
					達成度	102%	31%	180%	166%												
				講座実施回数	目標値	30	35	20	25	25	回										
					実績値	25	11	16	13												
					達成度	83%	31%	80%	52%												
				自己評価		4.5	2.0	4.0	4.0	点											
				27 総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進	27	総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進	学校教育課	実施校数	目標	53	53				53	53	53	校	各学校で総合的な学習の時間等を活用し、障がい者・児や高齢者の疑似体験などを行った。（例：【平原小、佐志小など】手話体験【成和小、七山小、田野小など】サウンドテーブルテニス体験【納所小、大志小、久里小、伊岐佐小、第一中、北波多中、七山中】車椅子バスケットボール体験【打上小、鏡山小など】点字教室【東唐津小、外町小】音声ボランティア体験等）	3.5	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い 体験学習等の実施に係る時間等の確保に向け、各学校への啓発を行いたい。 コロナ禍で外部講師を招喚したり、地域の方との交流が難しい状況が続いたが、各学校は感染状況が落ち着いてきたタイミングを見計らって実施した。実績数としては昨年度よりも多くなっており、今後も積極的に体験活動を実施していきたい。
									実績	37	13				32	30					
									達成度	70%	25%				60%	57%					
自己評価		3.0	2.0					3.5	3.5	点											